

# 令和6年度 第1回杜陵高校学校運営協議会 議事録

実施日：6月10日（月）15:30～17:00

## ○ 出席者

赤石真美 氏（岩手日報社）、本山敬佑 氏（岩手大学）、吉田真雄 氏（YOSHIDA LIFE）、佐藤清一 氏（定時制PTA会長）、水野洋子 氏（通信制FTA会長）、千葉仁 氏（同窓会長）、加藤源広 氏（NPO 法人もりおかユースポート）、足利文香 氏（フォトグラファー）、三田正巳（校長）、大槻英樹（定時制副校長）、砂沢剛（定時制副校長）、藤田早苗（通信制副校長）、他生徒13名

※ 欠席の委員（4名）：両方義人 氏（NHK 盛岡放送局）、小田加代子 氏（フリーアナウンサー）、三浦隆 氏（黒石野中学校長）、中坪久人 氏（株式会社ギャルドブレイン）

## ○ とりよんカフェ

担当：通信制生徒会2名

## 1 開会行事

（1）朗読発表（定時制3年次生徒）

（2）生徒による学校紹介

担当：定時制生徒会2名、通信制生徒会2名

## 2 委員自己紹介及び会長選出

会長は吉田真雄委員に決定

## 3 学校概況説明（三田校長）

新しい高校入試制度、遠隔授業の拠点、人材バンクの紹介等、本年度からの新規の取組等について説明し、昨年度からこれまでの活動について映像で紹介した。併せて本校の経営計画及び特色化・魅力化ビジョンに沿って学校運営基本方針を説明し、**学校運営基本方針について承認**を得た。

## 4 委員と生徒による協議（グループワーク）

テーマ「個性を活かして社会に自立する生徒を育むには」

委員と生徒合わせて4～5名のグループを5つ編成して協議（15分）を行い、各グループの委員1名から協議のまとめを発表していただいた。

### 【協議のまとめ】

#### （委員A）

3年生1人と1年生2人のグループでした。テーマ「個性を活かして社会に自立する」に拘わらず、なぜこの学校に来たか、今何が楽しいかということを中心に話しをした。皆さんそれぞれに想いがあるってこの学校を選んだということがよくわかった。そして、このような場に来てくれるということが大人として嬉しくありがたいと感じた。皆さんが学校でやりたいことや好きなことを見つけ始めており、マンガ甲子園や版画甲子園で全国大会に出場したこと、歌が好きであるというような話を聞いた。他人に合わせなければという気持ちでいた生徒たちが、心の扉を開いて「自分はこれが好きだ」ということを見つけ始めて、それが自立の一步になるということを改めて感じた。楽しく前向きに学校生活を送っているようだが、楽しくないこともあったら、先生や上級生の助けをかりながら今後も楽しく学校生活を

送ってほしいと思う。できることがあればお役に立ちたいと思う。

(委員B)

あっという間に時間が過ぎた。自立についてということで皆さんの考えを伺った。まずは、頼れる場面と頼らずに自分で頑張れるところを見極められるようになること。これは経済的な自立より精神的な自立ということでお話をいただいた。次に、相手に足りないことがあれば補ってあげる、できないことがあれば助けてあげるというお話。とても素敵な考え方で、これは自分が普段考えていることと全く一緒でした。両手があれば、自分にできることで人を助け、もう片方の手では助けてもらったときに手をとれるようになることが大事であるといつも話しています。この場で聞いた話に感動しっぱなしでした。大学生を連れてきたかったと思っています。2人の学校生活で、朗読やギターを始めたことは、学校の授業が1つのきっかけであったということで、学校に入ってからのお話が生活に彩りを与えていると感じた。すごく素敵な考えやこの学校に入ったからこその出会いが、学びや生活を支えているし、好きなことの先に社会とつながる大きな武器になるような可能性を感じた。そういう意味で、一大人としてお二人のお話を聞いて感心したし、同い年であれば到底敵わないと思いつつ聞いていました。私自身、非常にいいお話を聞くことができました。

(委員C)

3人の話を引き出すどころか、おじさん2人の話をきいてもらう形で進んでいった。テーマが難しいと感じた。個性と自立はうまくかみ合わないのではないかと話した。学校はどちらかという個性は生きないかもしれない、同じ方向を向いて同じ勉強をしたりする…。学校では個性を生かすという内容だった。ただ、吉田委員からはいいお話があった。社会に出れば黙っていてもお金をもらうことができるかもしれない。つまり、会社であれば、決められた時間に出社し、与えられた仕事をしっかりこなすことができれば、自分の個性に関係なくお金はもらえるかもしれない。社会はどちらかというところが多いので、学校が社会に出る訓練の場だと考えれば、冒頭の話もそういう意義があると捉えることができるかもしれない。1年生、2年生、3年生という編成であったがうまくお話を引き出すことができませんでした。

(委員D)

最初に杜陵高校に入学してからの生活を振り返ってどうであったか伺った。学校に休まずに来られるようになった。授業を含めて学校が楽しい。生徒会活動に取り組もうとしている。といった話があった。次に授業以外で取り組んでいることを話した。スポーツをしたり絵を描いたりといった話があった。私自身はこの春に退職し、新しい目標をたてて一関ハーフマラソンに出場した。1時間57分という記録であった。4月5月はこの目標を達成するために苦勞をした。まとめとして、この学校は自分のやりたいことをやることができ、最終的には個性を伸ばしてくれる学校ではないか、というところまで、時間が足りず自立という大きなテーマにまではたどり着けなかった。

(委員E)

テーマに沿って話を進めていった。私は基本的に個性という言葉があまり好きではない。仕事柄、ニートや引きこもりの方と接することが多いが、そういう方は個性がない自分に悩んでおり、個性、個性と言われると辛いという方が多い。もちろん個性があって伸ばすところがある方はどんどん伸ばしてほしい。先ほどのグループワークでは、まだ個性を見つけられていないならば無理をする必要はないと話したが、生徒たちはとても誠実に答えてくれて、この誠実さはすばらしい個性だと思いました。

## 5 校長から

真剣な議論をしていただきありがとうございました。子供たちの話を真剣に聞いていただける大人がいるということが我々としてはありがたいことであり、そのようなお力添えをいただいたことは大きな財産になったと思っています。今日参加した生徒たちはそれぞれ様々な思いをもったのではないのでしょうか。我々の役割は、生徒が生きやすくがんばりやすい場所として学校の環境を整えることであると考えています。今後とも御支援・御協力をいただきたい。

定通サミットを今年度は東北地区に拡大し8月5日、6日に実施します。県外の生徒も含めて70名程度の参加を想定しています。1泊2日で自衛隊の支援をいただきながら実施するこれまでに例のない価値のある取組であると考えています。内容については改めて委員の皆様にお知らせします。

### 【参考：オブザーバー参加した生徒の感想等】

・ 定時制の特色のおかげで自分の個性を見つける、伸ばせるということを感じました。
・ 委員Aさんの大学時代のお話を聞けたり、立澤さんや真奈さんの杜陵高校を選んだ理由を聞いた り、自分とは違う価値観を知られてとてもいい機会になったと思いました。
・ 個性というのは「とんでもなく優れている人」とか「とんでもなく明るい人」だけではなく、小 さいこと（ゴミを拾う、人とゆっくり話せる）でも個性というのかなと思いました。
・ テーマが個性と自立についてで、一人一人がいろいろな意見を話すことができた。
・ 親や色々な人がその子が何をしたいかを重要視すればいいと思いました。親に言われたことよ り、その人が何をしたいかがその子のためにもなると思うからです。
・ この1年間でふり返って、学校に行くのが楽しいと思えるのがすごくいい。 ・ 自分の趣味など先生やみんながすごく応援してくれていい。 ・ 先生などフレンドリーで話しやすくて過ごしやすい。
・ 今回のグループワークでは、個性を身に付けるというような内容でした。僕は自分の個性にあま り気づけなくて困っていたが、個性を身に付ける前に自分のやりたいことや好きな事を見つけ ること、やってみることが大事だということに気づけました。すごく自分のためになったと思 いました。
・ 1年間でふり返って→学校に行くのが楽しくなった。成長した。 ・ 大変だと思うこと→生徒会 ・ 「杜陵高校は、生徒のやりたい事を尊重してくれる学校」
・ 小・中学校不登校→杜陵入ったら楽しい！ ・ 自分探し ・ やりたいことが見つかる学校といったら杜陵！

・個性や自立に対して言葉にしてみることで自分の考えが整理できた。” 迷惑” は気にしなくていい。

・私は、自立というのは自分らしくあるという意味であり、個性は、社会（他人）によって発見することができるなと思います。

・「個性と自立はイコールじゃない」はすごく納得した。